

30amE-145

地理情報システム (GIS) を用いた埼玉県 of 医療機関集積性と主要死因死亡率のマップ作成

○土屋 宏二郎¹, 内田 博之¹, 大竹 一男¹, 内田 昌希¹, 小田切 陽一², 夏目 秀視¹, 小林 順¹(¹城西大薬, ²山梨県大看)

【目的】近年、医療機関へのアクセスのしやすさに格差が生じている。医療機関の分布の偏りにより、医療機関へのアクセスが悪化し、住民の健康に影響を与えることが予想される。本研究では、埼玉県の高齢者の人口割合の検討と医療機関の点分布を検討するとともに、同県医療機関の密集性と主要な疾患の市区町村別年齢調整死亡率の関連性を検討した。

【方法】市区町村別データとしては、埼玉県町 (丁) 字別人口調査資料 (2010 年) を用いて市区町村別の 65 歳以上人口割合の検討を行い、また、埼玉県保健統計年報資料 (2009 年) を用いて悪性新生物・心疾患・脳血管疾患の年齢調整死亡率を検討した。地図データとしては、国土数値情報医療機関データ資料 (2010 年) を用いて病院 348 箇所・一般診療所 4055 箇所の点分布を検討した。なお、これらは地理情報システム (GIS) ソフトである MANDARA による空間分析によって行った。

【結果・考察】埼玉県の市区町村別の 65 歳以上の人口割合は、県西部で顕著に高く、医療機関が密集していない地域があり、医療機関間距離が直線距離 10 km 以上の地域があった。また、医療機関が密集していない地域で脳血管疾患の年齢調整死亡率が高かった。一方で、心疾患の年齢調整死亡率は医療機関の密集している地域では高く、悪性新生物の年齢調整死亡率は医療機関の密集性に関係なく高かった。これらのことから、医療機関の密集性と主要な疾患の年齢調整死亡率の関連性に差が出るのは、医療機関が密集していない地域で発症から医療機関までの搬送に費やす時間増えることや、救急医療の必要性が疾患により異なること、また、食習慣などの生活環境・生活習慣が関与すると考えられる。